

リアル脱出ゲームの魅力

市立釧路総合病院 初期研修医
かじの こうへい
梶野 公平

初めまして、市立釧路総合病院初期研修医1年の梶野公平と申します。私は、今年3月に札幌医科大学を卒業し、指導医や研修医の先輩、同期に恵まれ、医師としての第一歩を踏み出したところでございます。

さて、今回私に若手医師リレーエッセイのバトンを託してくれたのは、中学・高校の同級生であり、1年間の浪人生活で切磋琢磨し支え合った山中遼太郎先生であります。山中先生は、勉強家であり、医学だけでなく多方面に精通しており、大学入学前から医師としての進路を考えていた友人としても医師としても尊敬できる方です。

本企画のテーマは自由ということでしたので、私が学生時代に出会い、大学最後の2年間を捧げたと言っても過言ではない「リアル脱出ゲーム」について執筆したいと思います。リアル脱出ゲームという言葉を目にしたことがある方は少なくないのではないでしょうか。リアル脱出ゲームとは、ある会場に閉じ込められた人がひとつのチームになり、さまざまな謎を解き会場からの脱出を目指すといった趣旨のゲームです。昨今では、テレビやSNS、デパート、駅構内など、様々なところで謎解きや脱出ゲームを目にすることが増えており、いまや日本は空前の謎解きブームといえるでしょう。マードーミステリーもそのひとつでしょうか。人気上昇に伴い、ホテルに実際に宿泊して遊ぶ作品や遊園地などに数千人が一堂に会する作品まで様々な種類のゲームが登場しています。そして、その火付け役の一端を担ったのは間違いなくリアル脱出ゲームであると思います。

私がリアル脱出ゲームと出会ったのは大学4年生の終わり頃でした。当時、コロナ禍で対面の遊びや部活動が制限され、新入部員と遊ぶこともないまま1年が経過しようとしていました。せっかく入部してくれたのに、何のイベントも企画できず1年を終えてしまうことに対して、申し訳ない気持ちを覚え、オンラインで遊べるものを探していた際に発見したのが某有名アニメとコラボしたオンラインで遊べるリアル脱出ゲームでした。最初の頃は、オンラインではコロナ禍も気にならないから、という理由で部活動の友人や大学の同級生と遊んでいました。しかし回数を重ねるにつれて、脱出失敗した時の悔しい中燃え上がるリベンジ意欲や、制作陣による洗練さ



札幌出身。北嶺高校、札幌医科大学を卒業し、現在は市立釧路総合病院で研修医1年目となります。写真は、今年開催されたグリーンランドでのリアル脱出ゲーム「夜の仮面サーカスからの脱出」での1枚です。(一番左が私です)

れた謎やその面白さ、そして何より脱出成功した時の何物にも代え難い心地よさに取り憑かれ、コロナ対策の緩和とともに、店舗での作品にも参加するようになりました。オンラインでも十分楽しいのですが、やはり実際に閉じ込められて遊ぶのは一味違います。そして、この2年間での脱出ゲーム参加回数は、対面・オンラインを合わせて40近くにまでになりました。

少し詳しく説明したいと思います。リアル脱出ゲームでは、序盤は1人で難なく解けるような比較的簡単な小問から構成されており、謎を分担して解いていくというステージです。しかし、謎を解き進めるにつれて、それぞれが持っている情報を共有したり、あるいは序盤に与えられた情報を使わないと解けない謎などから成る、共同しての謎解きが大切なステージとなります。最後には、今まで与えられた情報を総動員しつつ、必要な情報を見極め、脱出成功を図る閃きが重要なステージとなります。例外はあるものの、概してそのようなゲームであります。明確な答えが1つ用意されているという点では異なりますが、医師や医療従事者に求められているものもそこに通じるものがあると思います。1人でできること、協力して進めるものを把握し、今まで集めた情報を振り返って、いま問題なのは何かを考え、必要な検査・治療を組み立てていく。特に救急当番などでは、とても大切な力かと思います。まだ医師3か月目の私が一人できることはとても少ないですが、自主学习や周りの力を借りて、知識面でも手技面でも精進していけたらと思います。

そんなリアル脱出ゲーム、北海道では常設店は札幌店(大通駅直結)の1店舗のみですが、ゲームキットを購入し、自宅で遊べる作品はさまざまありますので、みなさん一度息抜きに遊んでみてはいかがでしょうか。

最後まで読んでくださり、ありがとうございました。